

東京農業大学稲花小学校

学校だより【9月27日】第24号



英語の学習

9月20日(金), 学校法人東京農業大学の澤理事長と, 東京農大の応用生物科学部外国語研究室(英語)の寺本明子教授および谷本佳子助教が, 1年生の英語の授業を視察されました。本校では, 1年生から毎日, 1クラス18人ずつでの英語の授業を行っています。子どもたちはイギリス人とオーストラリア人の先生方の指示に従って, 動作をしたり, 歌を歌ったり, 質問に答えたり……とその上達ぶりには驚くものがあります。子どもが順番にホワイトボードの前に立ち, ICTを活用して映写された文字を指示棒で指すと, 他の子どもたちも声をそろえて文章を読んでいきます。文字から音節, 音節から単語, 単語から文章へと理解が深まっているのです。椅子の「下」をくぐって, 蛇の「周り」を歩いて, 岩の「上」に乗って, と, 動作によって前置詞についても理解していました。英語では, 毎日の復習を必須としています。子どもたちが復習(教材 REP)をきちんとやっているかどうかは, 翌日の学習にも影響しますので, 子どもたちのがんばりが期待されます。

田奈稲刈り実習

本校の1年生は, 神奈川県横浜市青葉区田奈の水田で, 5月から田植え, 田んぼの生き物観察…と, 体験学習を積み重ねてきました。指導は, 東京農大の農芸化学科の横田健治教授, 加藤拓准教授, 食品加工技術センター 野口智弘教授が引き受けてくださいました。そして, 学生や院生の皆さん, 水田のオーナーである野路様ご夫妻, 地元の方々にも, 優しく見守っていただけてきました。

9月26日(木), 本校の1年生はそろってこの田奈の水田を訪れ, 稲花タイムの一環としての「稲刈り実習」を行いました。好天に恵まれ, あらかじめ落水して水田はよく乾いていました。稲は十分に実り, 重くなった穂が下を向いています。まず, 加藤准教授に鎌による稲刈りを実演していただきました。その後, 子どもたちは手に鋏をもって, 稲を刈り取っていきました。



手際よく刈り取る子どももいれば、パラパラと落としてしまう子どももいます。しかし、しばらくすると、それぞれが上手に刈り取ることができるようになります。片手でつかめるだけの稲を束にしたら、それをそれぞれが持ち帰るのです。お友だちと比べて、たくさん取れたかを気にする子どももいますし、束にした根元を切りそろえて持ちやすくする器用な子どももいます。「カレーライスにする」という子どももいますし、「このままじゃ、食べられないのにね」という子どももいます。そのうちに、あぜ道のバッタやカエルに興味に移る子どももいます。子どもたちの表情が皆、生き生きしているのを見るのはうれしいものでした。

収穫後は、野口教授にご指導いただき、粃を削って玄米にしたり、お茶碗一杯のご飯を作るために、いくつの穂が必要になるのかをクイズで答えたり、と楽しい学びの時間となりました。



収穫されたお米は、新米として11月の給食で供される予定です。お世話になった大学の先生方や学生さん、野路様にも小学校にお出かけいただき、子どもたちと一緒に給食を味わっていただくことにいたしましょう。

青いリンゴの香り？

小学校正門前のマユミに、たくさんのカメムシが発生しました。キバラヘリカメムシというカメムシです。「カメムシは臭い」と相場が決まっていますが、昆虫に詳しい卒業生に問い合わせたところ、このキバラヘリカメムシは臭くないとのこと。むしろ、青いリンゴのような香りがすると教えていただきました。ということで、勇気を出して2匹をビンの中に捕まえ、ちょっと刺激を加えてから匂いを嗅いでみると、たしかに青いリンゴあるいは青い草の香りがします。

これならばと、下校前の子どもたちに、カメムシ入りの瓶を見せて説明すると、びっくりしたことに、匂いを嗅ぎたいという子どもたちがたくさん集まってきました。「カメムシって臭くて、自分の匂いが臭すぎて死んじゃうんだって」と教えてくれる子どももいました。一人一人に瓶の口を小さく広げて匂いを体験してもらいました。「リンゴ?」「草みたい」「臭くないね」と感想は様々。「わからないよ」と正直な声も。もしかすると途中から、もう臭気はなくなってしまっていたかもしれませんね。とはいえ、虫を怖がることもなく、匂いを嗅いでみようとする子どもたちの意欲には感心したひとときでした。なお、一般にはカメムシは臭いので、触ることはお薦めしません。でも、見ているだけなら大丈夫です。



キバラヘリカメムシ



キバラヘリカメムシの幼虫

暑さ対策も科学的に

「暑さ寒さも彼岸まで」と言われます。お彼岸は過ぎましたが、まだ日中は暑いことがあります。東京農大の榎村修生教授は、環境生理学、とくに暑熱対策の専門家であり、来年の東京オリンピックで心配される暑さへの対応に関する研究などにも取り組んでおられます。この榎村教授を通して、[カバヤ食品](#)様から熱中症対策用「塩分チャージタブレット」を頂戴し、9月26日(木)の田奈稲刈り実習では子どもたちにも配布いたしました。榎村教授によると、秋の入り口のこの季節、まだ、ヒトの体は暑さに順化しているとのこと。少し、暑くなると汗が大量に出ますが、汗が大量に出ると塩分も体の外に相当分逃げるので、塩分タブレットを水分とともに摂取することがお薦めだそうです。とくに小さな子どもは、体温調節が、大人よりうまくいきませんので、秋口のこの季節でも熱中症には十分に注意することが大切だと教えていただきました。

塩分タブレットはお菓子ではなく、健康を守るためのものです。お天気に恵まれて暑かった稲刈りですが、子どもたちは水分補給とともに、塩分タブレットについても知ることができました。勉強を十分に行って学力をつけたり、行事などを楽しんだりするためには、体調が整っていることが前提です。子どもたちの体調については、保護者の皆さまにも注意を払っていただきますようお願いいたします。。

校長 夏秋 啓子